

# 奈良県公共事業評価監視委員会 委員

(平成22.23年度)

区分	職名	専門分野	氏名	任期	備考
学識経験者	京都大学名誉教授 鳥取環境大学 教授	公共事業全般、農業土木学、灌漑排水学	三野 徹	平成22年4月1日～ 平成24年3月31日	委員長
	奈良教育大学 教育学部 教授	自然環境 (植物生態学、保全生態学)	松井 淳	平成22年4月1日～ 平成24年3月31日	新任
	奈良産業大学 ビジネス学部 准教授	財政学、地方財政	三浦 晴彦	平成22年4月1日～ 平成24年3月31日	
	奈良県立大学 地域創造学部 准教授	地域学・地域史	戸田 清子	平成22年4月1日～ 平成24年3月31日	
	元(財)南都経済センター 顧問	経済全般	柳谷 勝美	平成22年4月1日～ 平成24年3月31日	
有識者	三住法律事務所 弁護士	法律全般	藤次 芳枝	平成22年4月1日～ 平成24年3月31日	
	(株)読売奈良ライフ 代表取締役社長	文化・観光	朝廣 佳子	平成22年4月1日～ 平成24年3月31日	

(順不同)

## 平成22年度 第2回 奈良県公共事業評価監視委員会 議事録

1. 日時 平成22年10月19日(火) 14時00分～16時00分
2. 場所 奈良県中小企業会館 大会議室
3. 出席者  
・委員 (敬称略)  
三野 徹、松井 淳、三浦 晴彦  
藤次 芳枝、朝廣 佳子  
柳谷 勝美(欠席)、戸田 清子(欠席)  
・奈良県 土木部次長、下水道課長、下水道課、技術管理課  
・市町村 斑鳩町、高取町、奈良市、香芝市

## 4. 議事

## (1) 委員会の運営について

- 1) 平成22年度第1回奈良県公共事業評価監視委員会の議事録の確認
- 2) 平成22年度再評価対象事業一覧説明

## 2) 下水道事業の再評価について

- 1) 奈良県の下水道事業全体についての説明(奈良県下水道課)
- 2) 斑鳩町公共下水道事業の再評価資料の説明(斑鳩町)

## 斑鳩町公共下水道事業の再評価に関する審議

(三野委員)

それでは、ただいまご説明いただきましたが、斑鳩町の件についてご質問、ご意見ございましたらお願いします。

(三野委員)

接続率が約60%との事だが、奈良県内の他の自治体と比較してどの程度のものなのか。

(斑鳩町)

奈良県内の他の自治体の中には、当町より早い段階で供用開始している事もあって、接続率の高い自治体もある。

当町としては、供用開始してから4年を経過した中で、接続率約60%の数値はまずまずの位置付けではないかと認識している。

(三野委員)

下水道の整備できたのであれば、接続してもらうことが必要ですね。

(三浦委員)

今ご説明いただいたことも含めて、今回下水道事業ということで大きな形でお聞きしたいと思います。平成40年の事業完了後プラス50年を含めた評価期間でのB/Cで評価をしなければならないのはマニュアルがあるのでしかたがないと考えるが、今後の地方財政も考えた中で、人口等も減少していく事も考えられ、大変になると考えられる中で、そのあたりはどのように考えているのか。

(斑鳩町)

下水道のインフラ整備は初期投資が非常にかかってしまう。また、整備が完了した箇所の料金収入から後続の整備を進める事になり事業期間もかかる。下水道事業の性格であると認識し事業を進めている。

(三野委員)

市町村負担金はどの程度なのか。

(斑鳩町)

県への負担金、流域下水道負担金としては、資料のとおり 15,523 (百万円) となっている。建設費に関しては国庫補助金、地方債、一般町費。維持管理費については、料金収入で賄っている。

(三野委員)

流域下水道負担金とは？

(県下水道課)

流域下水道負担金とは、建設負担金と維持管理負担金とがある。建設負担金は処理場建設にかかる負担金であり、単年度の建設に対する事業費における、内訳で国庫補助金が  $1/2$  であり裏負担分の  $1/2$  ずつ、つまり  $1/4$  を県と市町村で負担している。維持管理負担金は、市町村が処理場に流す汚水量に応じて負担金を設定している。

(朝廣委員)

接続率向上に向けた取り組みは何かしているのか。

(斑鳩町)

啓発活動としては、定期的に広報誌に掲載、HP に掲載 下水道の日に小学生対象に習字等の募集、また年に数回だが接続率の悪い地区を対象として個別にチラシを配布したり、説明に行ったりしている。

(三野委員)

接続率の向上について鋭意、努力して頂いた上で、事業継続を可とする。

### 3) 高取町公共下水道事業・特定環境保全下水道事業の再評価資料の説明 (高取町)

高取町公共下水道事業・特定環境保全下水道事業の再評価に関する審議 (高取町)

(三野委員)

先ほどの事例に比べて B/C が若干低くなっているが何か要因があるのか。

(高取町)

今回の B/C の算出にあたっては、整備箇所の人口密度が高い公共下水道事業と整備箇所の人口密度が低い特定環境保全公共下水道事業と併せて算出しているため、若干低くなっていると考えます。

(三野委員)

特定環境保全公共下水道の方が、整備箇所の人口密度が低いので B/C を下げているんですね。

(高取町)

やはり整備箇所の人口密度が低い事で、整備管渠延長も長くなるのでそのあたりが影響していると考えます。

(三野委員)

住民さんにかかってくる負担は、市街化区域（公共）と市街化調整区域（特環）と同じなのか。

(高取町)

住民にかかってくる費用は同じである。

(三浦委員)

完成年度はいつなのか。

(高取町)

平成60年度である。

(三浦委員)

斑鳩町と同じであるが、事業期間が長く今後の経済情勢等も変化するなかで、平成110年を想定して、町として今後の整備をどのように考えているのか聞かせて欲しい。

(高取町)

本町としても、人口減少は大きな課題となっているので、まちおこしに力を入れている。イベントを開始してからは観光客も増加傾向にある。今後も引き続き人口減少を食い止める施策を考えながら増加の方向に持って行けるよう進めていこうと考えている。

(藤次委員)

住民アンケートの実施した結果の効果はどこの便益に含まれるのか

(高取町)

公共用水域の水質保全効果に含まれている。

(藤次委員)

具体的に住民アンケートはどのようなものなのか。  
またその金額換算はどのようにしているのか。

(高取町)

CVM手法により、下水道を整備した場合と整備しない場合に、改善のためにどれだけの金額を支払う意思があるかを住民アンケートにより測定し、その金額を効果として計上している。

そのアンケートは奈良県が実施しており、その結果を使っている。

(三野委員)

個別に計算しているのではなく、マニュアルに従っているということですね。

(高取町)

はい、そうですね。

(三野委員)

特に事業の支障がない、また住民からの要望もあり、公平性を保つということ等を含めて、事業継続を可とする。

#### 4) 奈良市公共下水道事業の再評価資料の説明（奈良市）

奈良市公共下水道事業の再評価に関する審議

(三野委員)

この B/C は奈良市全体でなく青山処理区だけのものなのか。

(奈良市)

青山処理区だけの B/C です。

(三野委員)

残事業は処理場の耐震化だけなのか。

(奈良市)

処理場の耐震化と開発区域の周辺既存集落の管渠整備が残っている。  
費用の大小としては、処理場の耐震化の費用の方が相当大きい。

(三野委員)

B/C の算出は耐震化の費用も考慮した値なのか。

(奈良市)

処理場の耐震化の費用と既存集落の管渠整備の費用を考慮している。

(三野委員)

事業完了年度は。

(奈良市)

現時点の認可では、平成 25 年度まで取得しているので、平成 25 年度の完了を目指している。

(松井委員)

当該処理場において、具体的にどういった箇所が耐震化が必要になったのか。

(奈良市)

現時点においては、平成 21 年度に耐震診断のみ実施しているだけであり、具体的な耐震化のための詳細設計が出来てない。  
今後耐震診断の結果を基に、どのような耐震施設を設置するのか検討していく事になる。

(三浦委員)

耐震化を考慮した B/C であったのではないのか。  
今後、耐震診断の結果を考量した詳細設計をした場合、B/C が変わる事にならないのか。

(奈良市)

現時点では、標準的な耐震化の費用を計上し B/C を算出している。  
詳細設計を実施した結果によっては、多少の事業費の増減は考えられる。

(三野委員)

大きく費用が変わる場合には、その都度報告してください。  
事業継続を可とする。

## 5) 奈良市公共下水道事業(雨水)の再評価資料の説明(奈良市)

### 奈良市公共下水道事業(雨水)の再評価に関する審議

(三浦委員)

平成 41 年完成であと 1・2 回の浸水発生は仕方がないという考えなのか。

(奈良市)

市の財政事情も厳しい事もあるので、早期完成は難しいが、主に浸水被害が頻繁に発生する地区から13年かけて優先的に対策を行い、残り6年で外周の工事をしていく予定であり、住民には迷惑をかけないよう事業を進めていく。

(三野委員)

放流先の下流の河川は大丈夫なのか。またポンプ施設は必要なく自然流下なのか。

(奈良市)

下流の河川も問題ない。また、当該地区において貯留槽の設置検討もしたが、現況の水路断面を拡幅する事で流下能力を満足する結果となっている。このことからポンプ施設も不要である。

(三浦委員)

奈良県全体で浸水常襲地域はどのくらいあるのか参考に教えて頂きたい。

(奈良市)

奈良市内全部で5箇所ある。その内数箇所が整備済である。

(事務局)

奈良県内全域については後日、持参させて頂く。

(三野委員)

事業継続を可とする。

## 6) 香芝市公共下水道事業(雨水)の再評価資料の説明(香芝市)

### 香芝市公共下水道事業(雨水)の再評価に関する審議

(三野委員)

河川整備計画との整合はとれているのか。

(香芝市)

当該区域の放流先河川の葛下川は、暫定改修済みで完了しているので、工事にかかることに問題は無い。

(三野委員)

香芝市の人口は減少しているのか。

(香芝市)

香芝市としては、H22/H21の人口比では1%の人口増となっている。

(松井委員)

B/Cが極端に高くなっている理由はあるのか。

(香芝市)

便益に計上出来る項目については、マニュアルに従い出来る限り算出し積み上げした。従って、奈良市の分で計上されてない項目が香芝市には計上されているので、便益としては高くなっていると考え。

今回同じ評価監視委員会に諮る事から、参考に奈良市が便益で計上している項目のみでB/Cを算出したところ3.13から2.6となった。

浸水被害額を計上する上で、香芝市の場合、1/3降雨・1/5降雨の場合においても

浸水する箇所が多数あり、1/10で整備する事でそれ以下の降雨の浸水箇所は全て解消されるので、便益としては高い数値になっていると考える。

(三野委員)

事業継続を可とする。

## 7) 【全体総括】

(三野委員) 第2回の委員会では下水道事業が6件であった。各事業ともB/Cの値に関しても問題なく、事業にかかる障害もなく、住民の要望もあるということで、審議の結果、事業の継続ということにして審議を終わりたい。

平成22年度 再評価等対象事業一覧および審議予定 [資料 3]

	種別	事業名称	事業主体 (県・市町村ほか)	事業箇所	適用	備考
第1回	道路	道路改築	県	(一)中筋出作川合線 (上牧町)	⑤	【9月6日】  1事業
第2回	下水道	公共下水道事業	奈良市	奈良市内 (青山処理区)	④	【10月19日】  6事業
	下水道	公共下水道事業	斑鳩町	斑鳩町内	④	
	下水道	公共下水道事業	高取町	高取町内	④	
	下水道	特定環境保全公共下水道事業	高取町	高取町内	④	
	下水道	公共下水道事業(雨水)	奈良市	奈良市内 (東九条排水区)	⑤	
	下水道	公共下水道事業(雨水)	香芝市	香芝市内 (葛下川第34排水区)	②	
第3回	林道	森林環境保全整備事業	五條市	高野辻阪本線	④	【12月21日】  5事業
	街なみ	街なみ環境整備事業	宇陀市	松山地区	②	
	街路	連続立体交差事業	県	JR関西線・桜井線	④	
	河川	社会資本整備総合交付金事業	県	宇陀川(宇陀市)	④	
	鉄道	京阪奈新線鉄道事業(第3種)	奈良生駒高速 鉄道株式会社	けいはんな線(生駒~ 学研奈良登美ヶ丘)	事後 評価	
平成22年度 総括						
再評価 11事業			県 … 3事業 市町村 … 8事業		事後評価 1事業	

再評価の該当要件

- ①事業採択後5年間を経過した時点で、未着工の事業
- ②事業採択後10年間を経過した時点で、継続中の事業
- ③事業採択前の準備・計画段階(ダム事業の実施計画、道路・街路事業の着工準備費等)で、5年間が経過している事業
- ④再評価実施後一定期間が経過している事業(いわゆる再々評価)
- ⑤その他